

山口県国際総合センター理事長 村田 常雄さん

下関市のランドマークとして知られる海峡ゆめタワーは昨年、開業20周年の節目を迎えた。20年間で約330万人が訪れるなど人気観光スポットとして定着。近年は訪日外国人客（インバウンド）も増えており、タワーを運営する山口県国際総合センター（愛称・海峡メッセ下関）の村田常雄理事長は「今後も下関のシンボルとして親しまれ続けるように努める」と意気込む。

（報道部・植野晃一朗）



〈むらた・つねお〉山陽小野田市出身。厚狭高校、京都大学法学部を卒業後、山口県庁に入庁。総務部次長、東京事務所長、人事委員会事務局長などを歴任。2015年3月に退職し、同年6月から現職。趣味はウォーキング。座右の銘は「人生の本舞台は常に将来に在り」。山口市大内小京都。62歳。

# 下関のシンボルタワーへ

▼海峡ゆめタワーの特徴  
地上143.3mの30階にある球状展望室からは、360度下関の街並みや関門海峡を一望できる。「恋人の聖地」にも認定されており、家族連れやカップルを中心に県内外や海外から多くの観光客が訪れる。

▼昨年開業20周年を迎え

い評価を得ているという実感があるが、来場者に来て

新しいアイデアを出し続けなければならぬ。

初年度の48万人をピークに

度さをさらに向上させたい。

下関のシンボルとして、

タワ―は20年間で約330万人とたいへん多くの人が訪れるなど人気観光スポットとして定着。近年は訪日外国人客（インバウンド）も増えており、タワーを運営する山口県国際総合センター（愛称・海峡メッセ下関）の村田常雄理事長は「今後も下関のシンボルとして親しまれ続けるように努める」と意気込む。

▼2015年度は5年ぶりに年間来場者数がプラス

近隣の観光客が分散したこともあり、近

くは、常に初心に帰って

に転じた

また、地域貢献活動として

出していくような、多くの

は

に利用していただいた。良

散したこともあり、近

また、地域貢献活動として

出していくような、多くの

年は年間10万人を割り込んでいたが、15年度は過去最低水準だった前年度を2.2%上回り、8万7千人が訪れた。「祭り」を年間テーマに四季折々のイベントを開いたほか、隣接する海峡メッセ下関で実施した全国規模のコンベンション「第58回日本糖尿病学会年次学術集会」には約1万人が訪れたことや、インバウンドの増加も貢献した。

▼今後の取り組みについて  
コンベンション誘致やインバウンドの増加で県外や海外からの来場者は増加傾向にある。また、今年4月に「関門ノスタルジック」海峡が日本遺産に認定され、下関市と北九州市共同の取り組みの強化などで観光客の一層の増加が予想される。館内表記やパンフレットの多言語化、団体客の迎えや見送り、観光ガイドボランティアの増員など、初めて来場した人にも「また来よう」と思ってもらえるように「おもてなし」の強化に取り組んでいきたい。

は

▼どうい場所にして

タワ―は20年間で約330万人とたいへん多くの人が訪れるなど人気観光スポットとして定着。近年は訪日外国人客（インバウンド）も増えており、タワーを運営する山口県国際総合センター（愛称・海峡メッセ下関）の村田常雄理事長は「今後も下関のシンボルとして親しまれ続けるように努める」と意気込む。

▼2015年度は5年ぶりに年間来場者数がプラス

近隣の観光客が分散したこともあり、近

くは、常に初心に帰って

また、地域貢献活動として

出していくような、多くの